

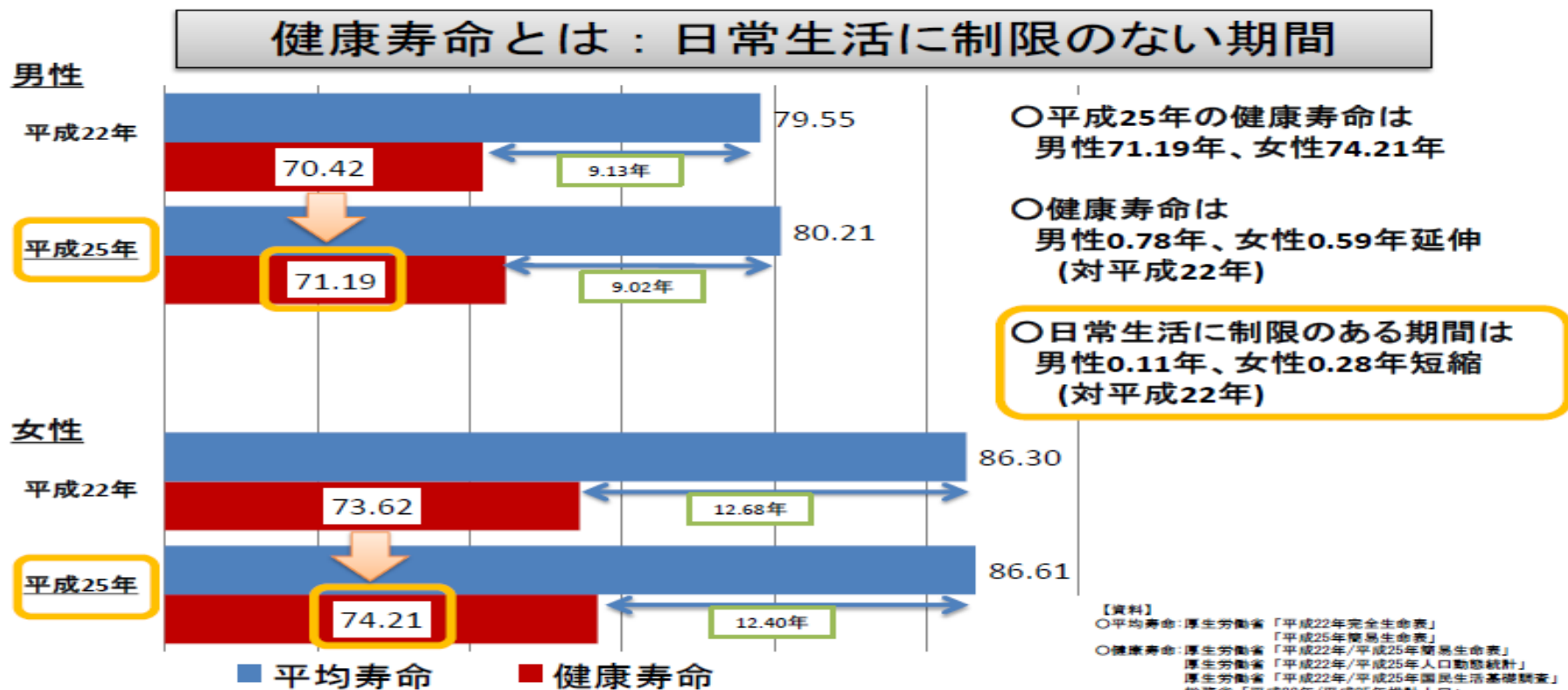
第2期データヘルス計画について

出版健康保険組合

1. 背景と目的

「日本再興戦略」（平成25年6月 閣議決定）の重要施策である「国民の健康寿命の延伸」のため、医療保険者において診療報酬明細書（以下「レセプト」。）等を活用したデータ分析の結果に基づく、加入者の健康保持増進のための保健事業の計画として「データヘルス計画」の作成、公表、実施、評価等の取り組みが求められました。

このような背景から、特定健康診査や特定保健指導の結果やレセプト情報を利用して健康課題を明確にして、効率的かつ効果的な保健事業を行うため、「データヘルス計画」を作成し、加入者の健康保持増進や生活習慣病の発症予防および重症化予防を推進しております。

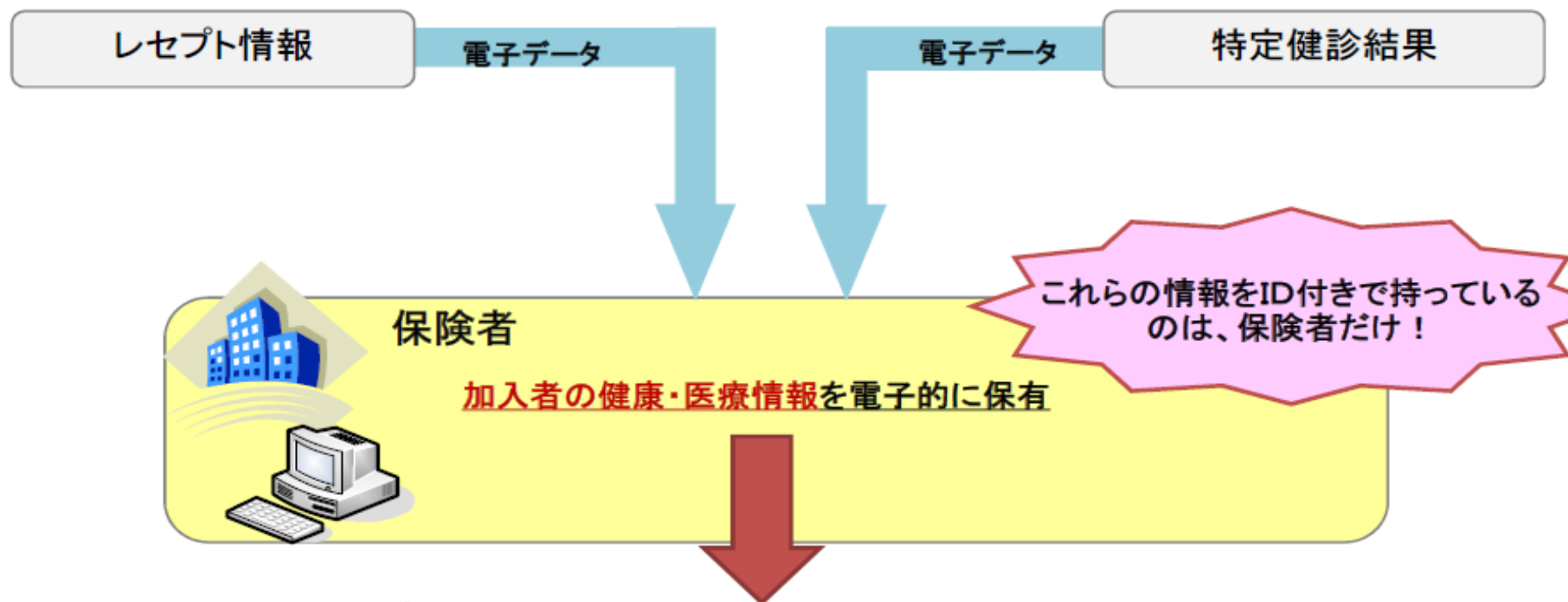


※健康日本21（第二次）の目標：平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加（平成34年度）
日本再興戦略及び健康・医療戦略の目標：「2020年までに国民の健康寿命を1歳以上延伸」（平成32年）
一億総活躍プランの指標：「平均寿命を上回る健康寿命の延伸加速を実現し、2025年までに健康寿命を2歳以上延伸」（平成37年）

レセプトによる医療費情報や特定健診の結果情報は、電子化の進展により、加入者の健康課題の分析などを行うための基盤が整いました。

これにより、保険者にデータ分析に基づく保健事業の実施が義務付けられました。

データヘルスの発想



加入者の健康課題の分析

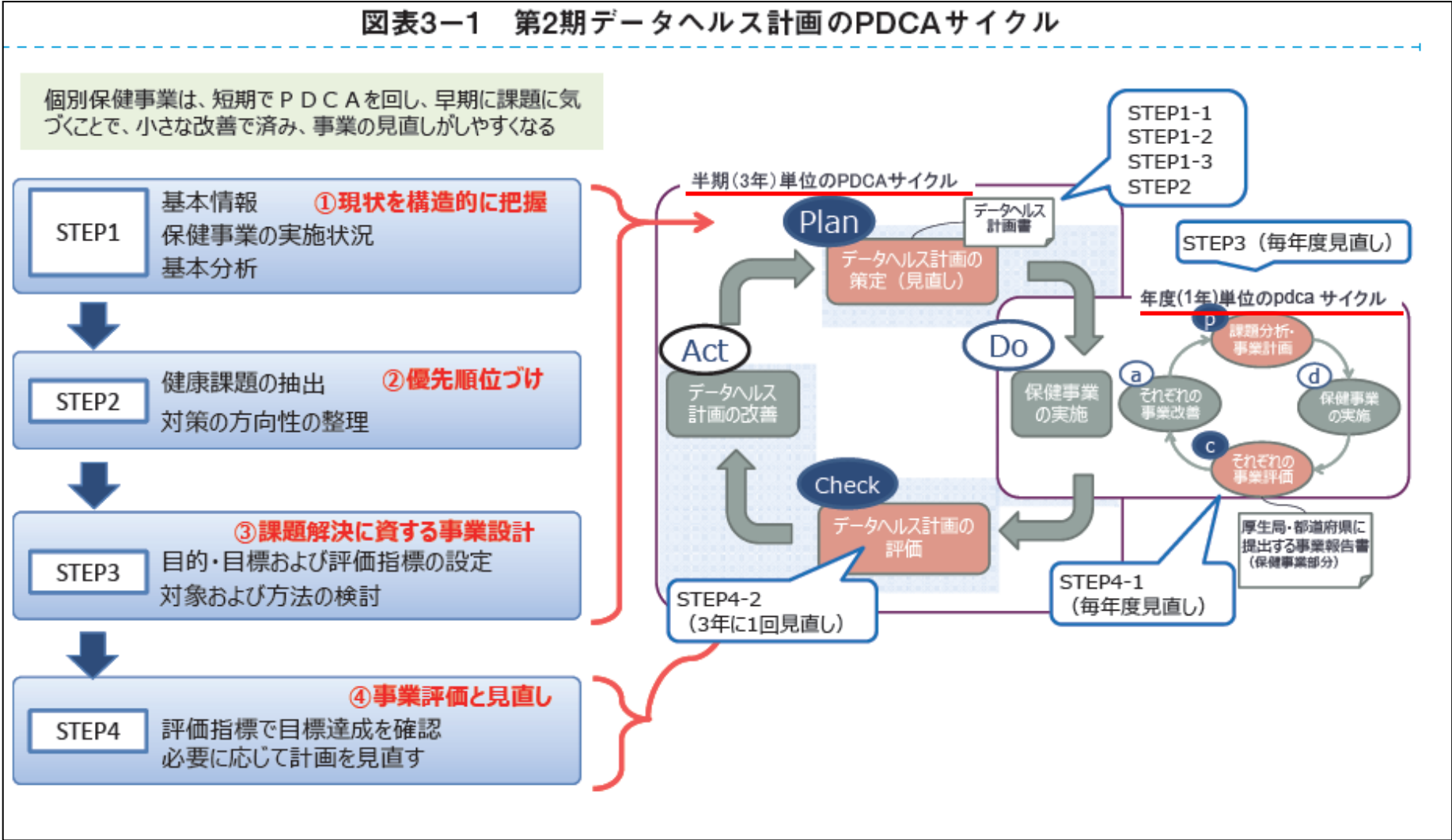
→ データ分析に基づく保健事業（データヘルス）が可能に

保険者の一部で、データ分析を活用した先駆的な保健事業を実施
しかし、全体的な普及には至っていない

2. データヘルス計画とは

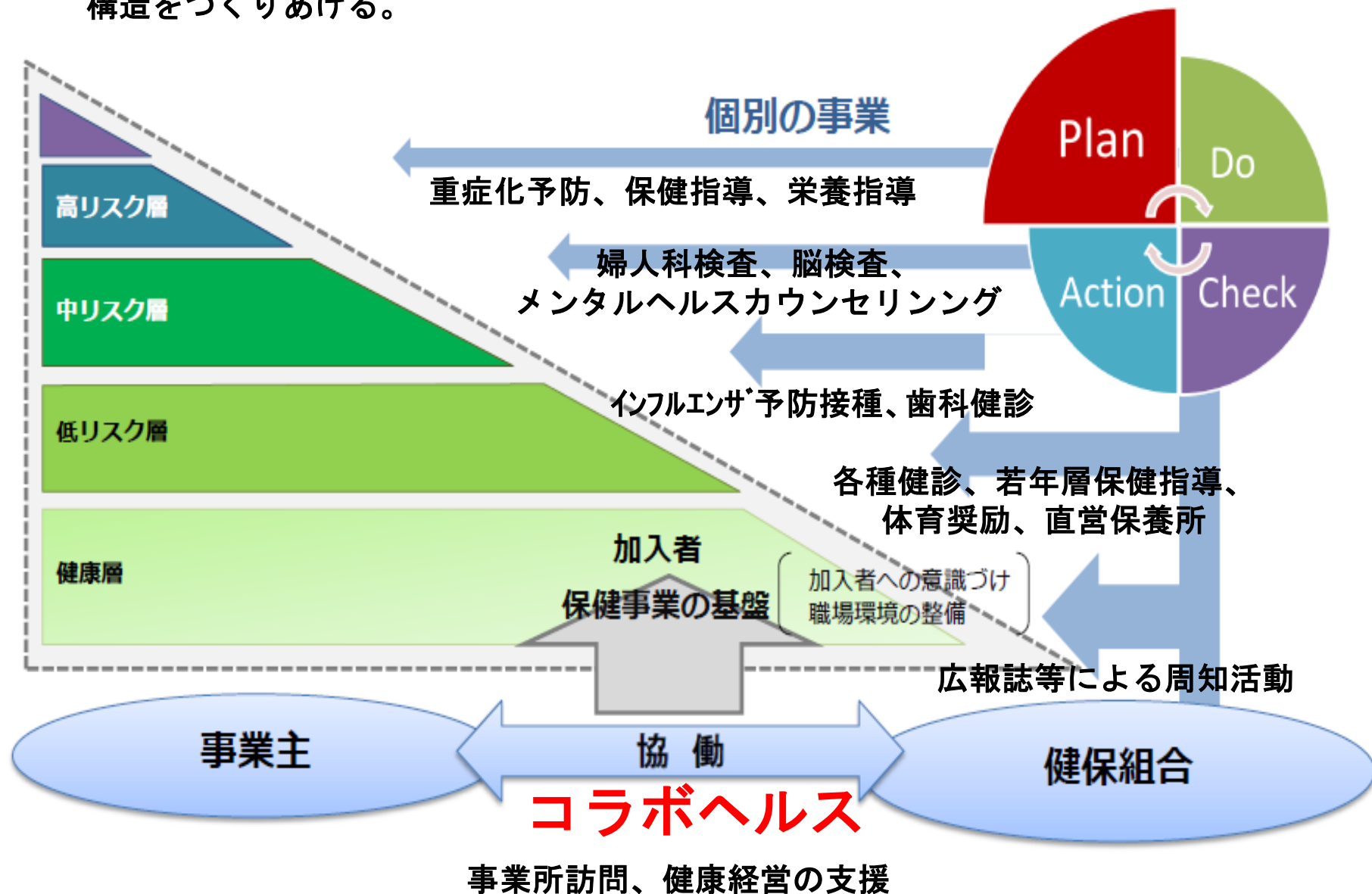
平成27年度から平成29年度までを第1期として実施し、平成30年度から平成35年度の6年間を第2期データヘルス計画として実施します。

第2期データヘルス計画 実施イメージ図



データヘルス計画の全体像

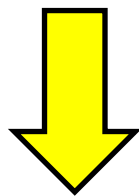
健康課題に応じた個別の保健事業をP D C Aサイクルで効果、効率を上げていく構造をつくりあげる。



3. 出版健康保険組合の現状（健康課題）

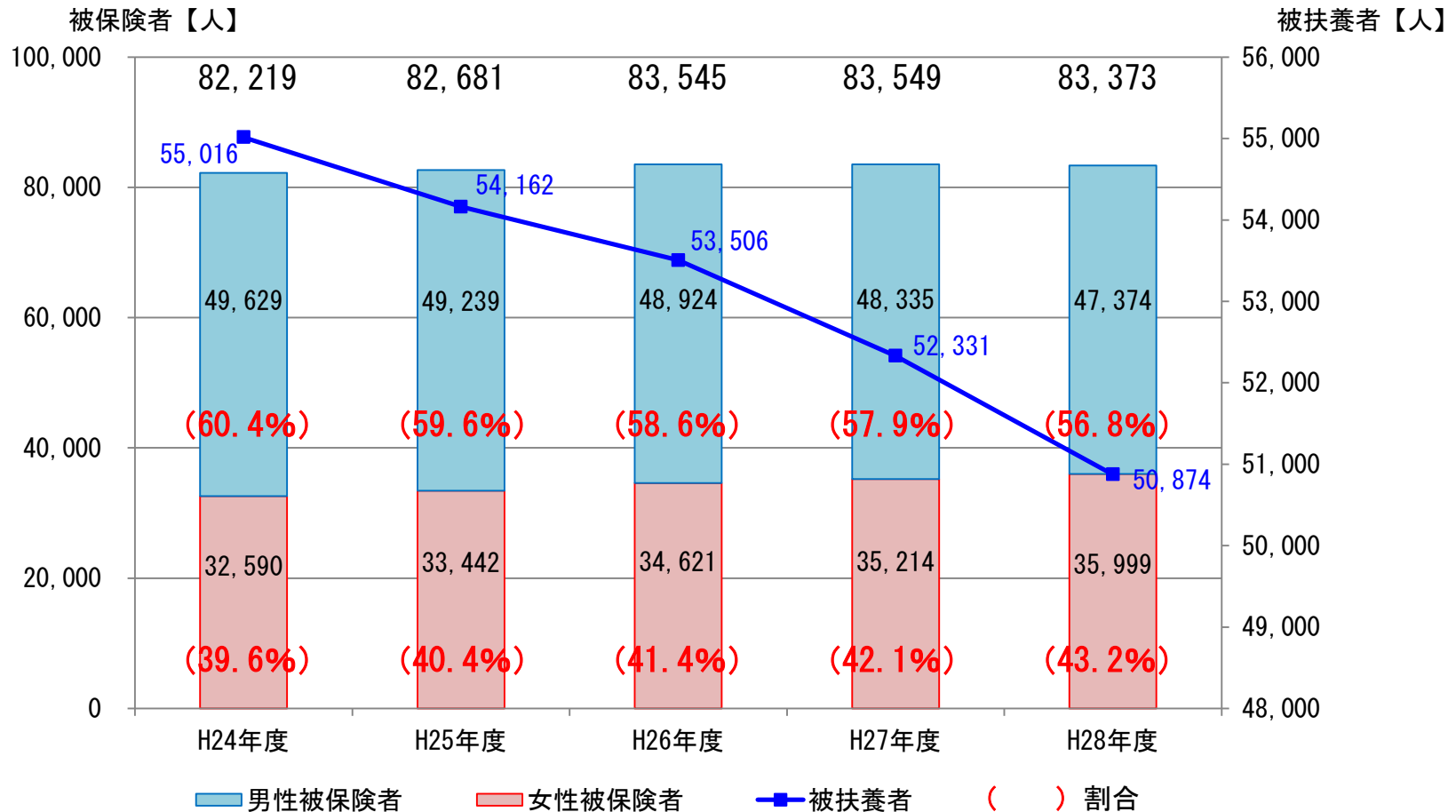
加入者の特徴や健康状態を把握します。

- ・ どのくらい加入者がいるの？
- ・ 加入者の生活習慣はどのようになっているの？
- ・ 加入者はどのような疾病にかかっているの？
- ・ 加入者は健康診断や保健指導を受診しているの？
- ・ 加入者はどのくらいジェネリック医薬品を使っているの？



レセプトデータ（医療費）や健診データ（問診票・結果数値）を活用して、様々な視点からデータを分析することで、加入者の健康課題を明確にして、**その対策の方向性から実施すべき保健事業を導きます。**

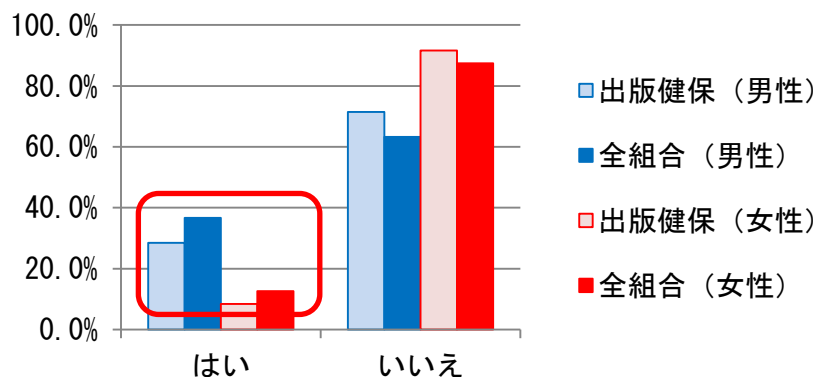
加入者の属性（推移）



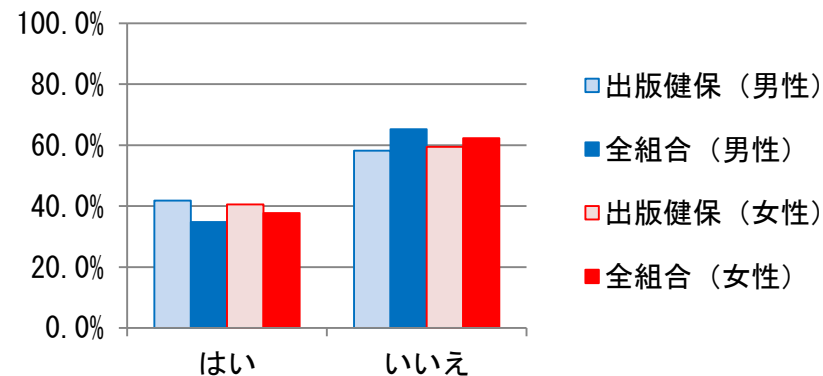
男性被保険者は減少、女性被保険者は増加傾向にあり、男女比は、57.0 : 43.0である。
全組合平均 68.0 : 32.0 と比較し、女性の割合が高い。
被扶養者についても減少傾向にあり、扶養率 0.61も全組合平均 0.84と比較し低い。

H28年度特定健診問診票回答の主な項目

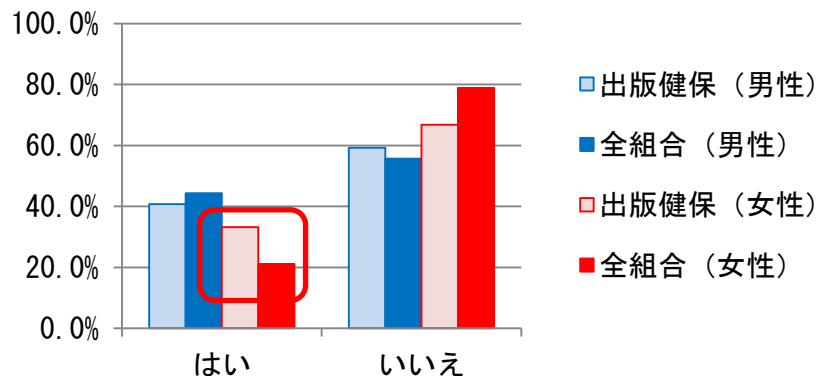
問8. たばこを習慣的に吸っている



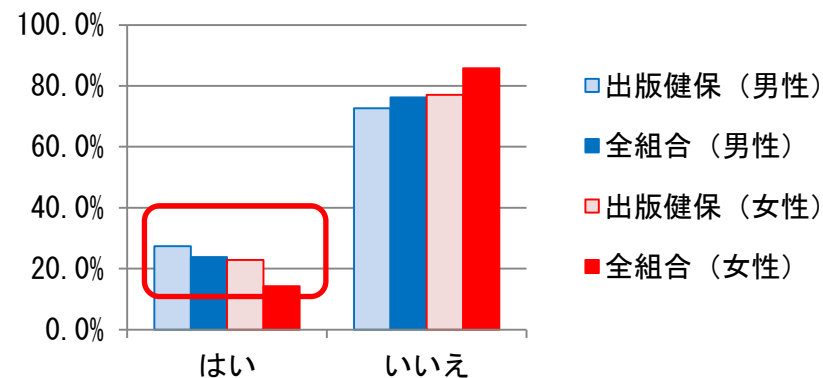
問11. 身体活動を1日1時間以上実施



問15. 就寝前2時間以内に夕食をとることが週3回以上

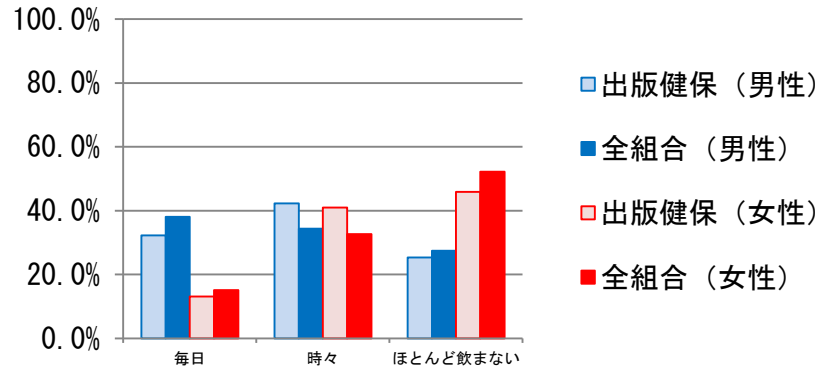


問17. 朝食を抜くことが週に3回以上

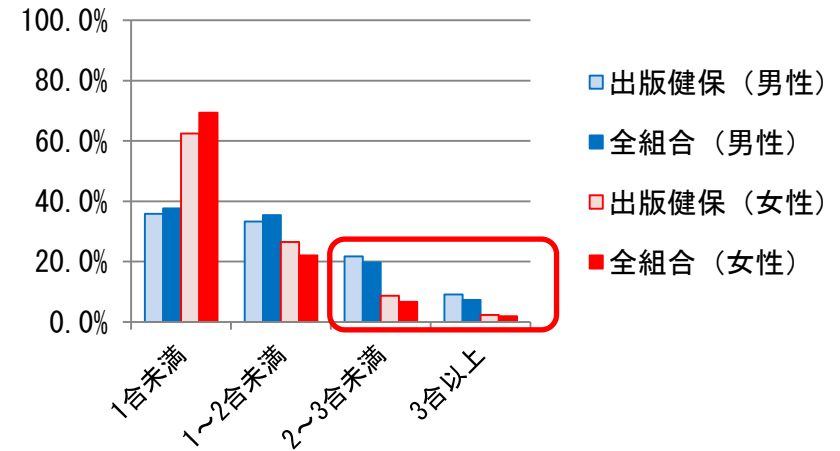


喫煙率は、全組合と比べ男女とも低い。
食生活では女性の就寝前の遅い夕食や朝食を抜く割合（男女とも）が高い。

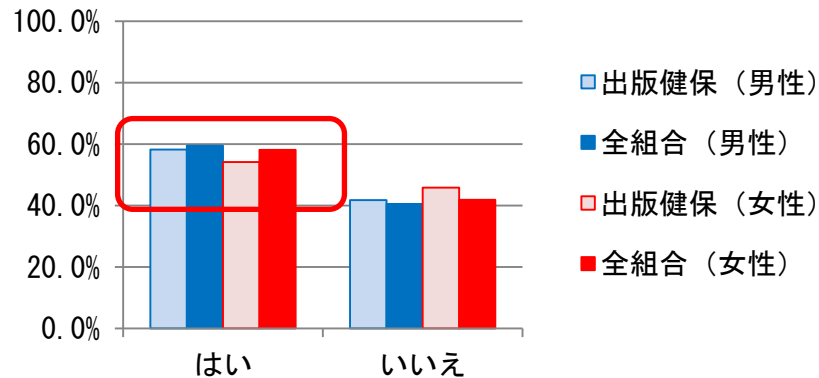
問18. お酒を飲む頻度



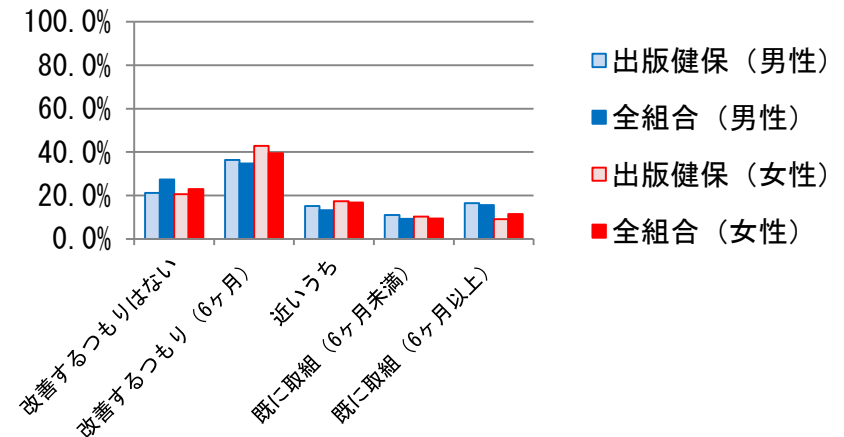
問19. 飲酒日の1日当たりの飲酒量



問20. 睡眠で休養が十分とれている



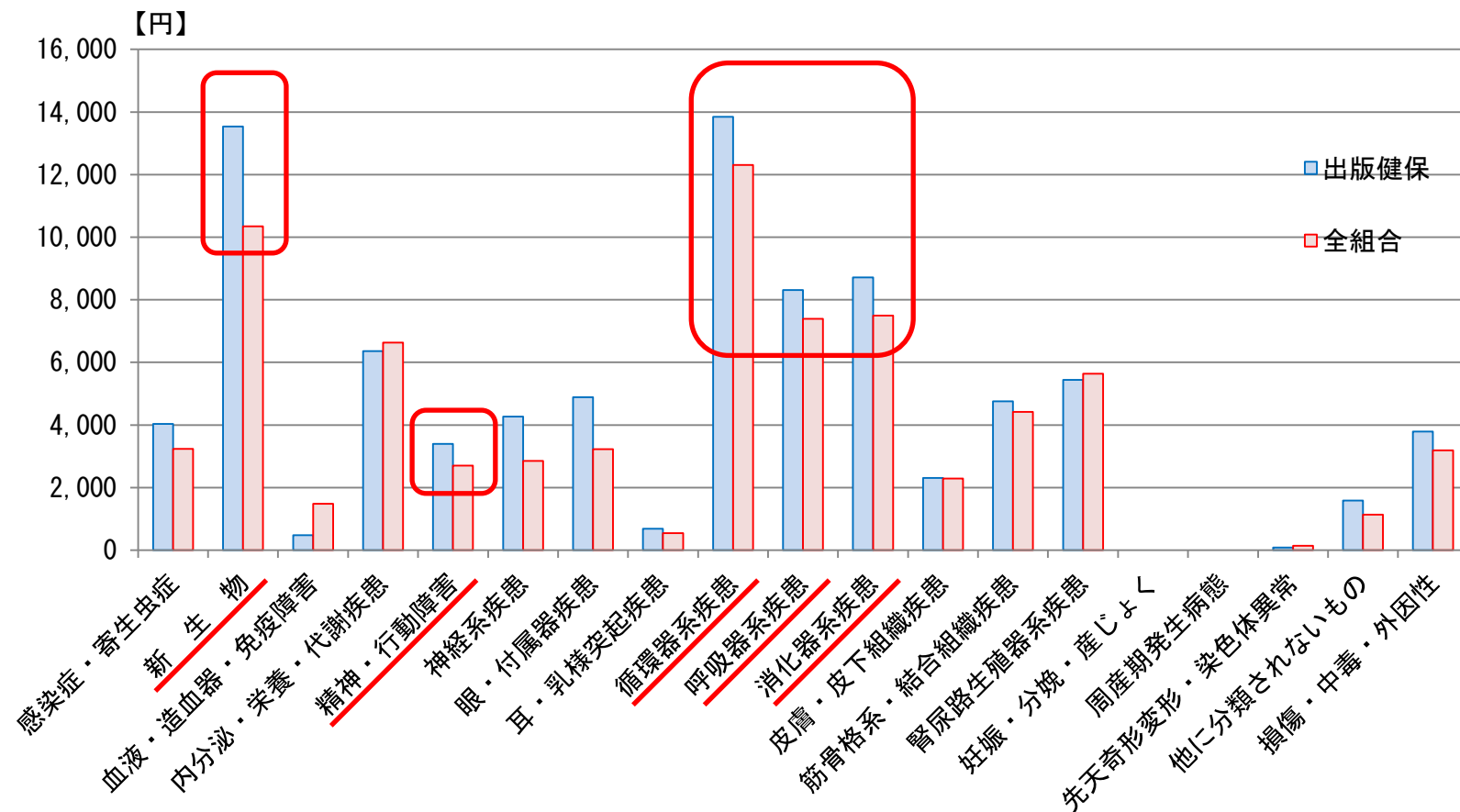
問21. 運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いますか



飲酒については、全組合と比べ1日当たりの飲酒量が多い。
睡眠については、休養が十分に取れている割合が低い。

H28年度 疾病分類別1人当たり医療費

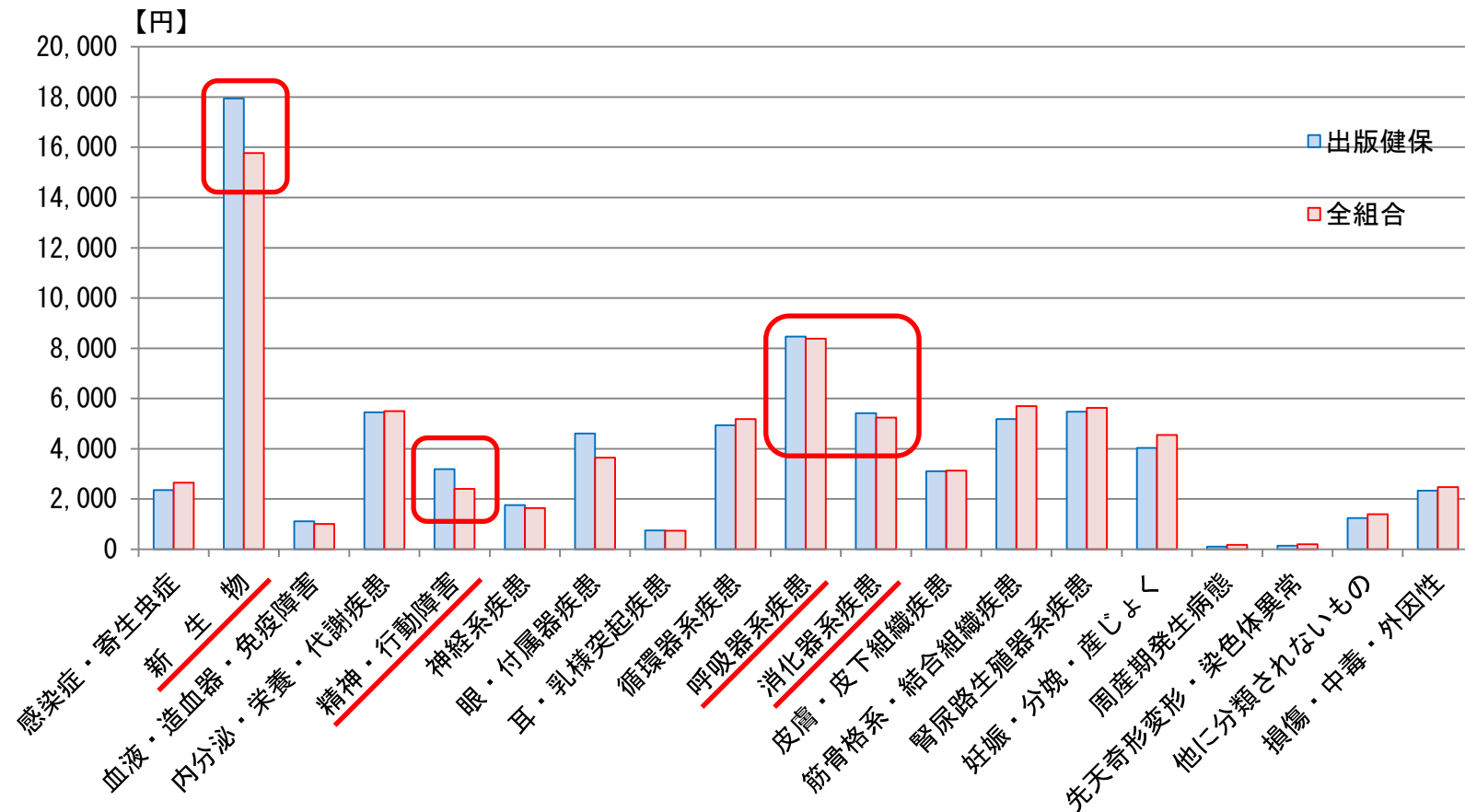
男性被保険者



男性被保険者については、全組合に比べ、新生物および精神・行動障害、循環器系疾患、呼吸器系疾患、消化器系疾患の1人当たり医療費が高い。

H28年度 疾病分類別1人当たり医療費

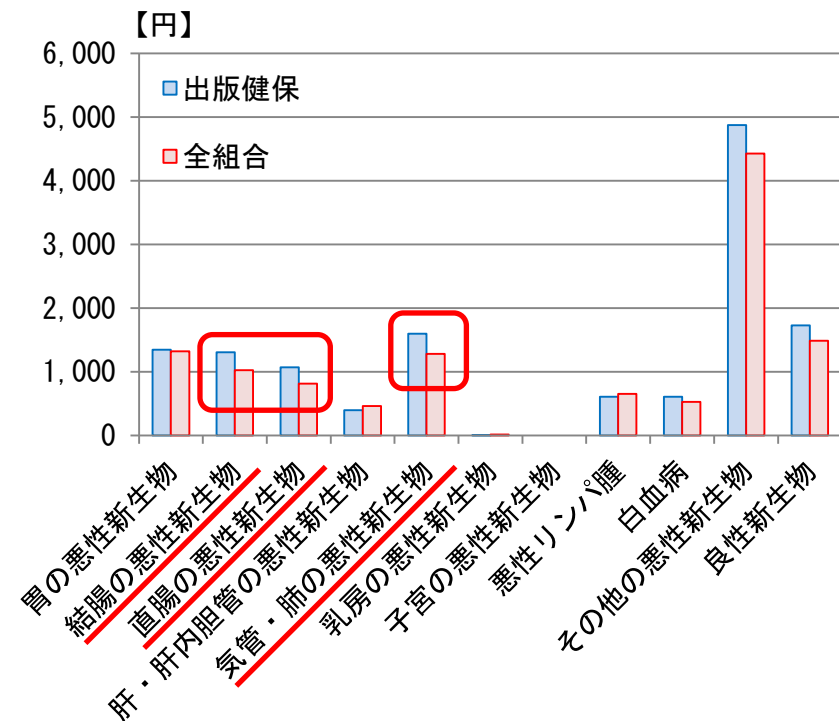
女性被保険者



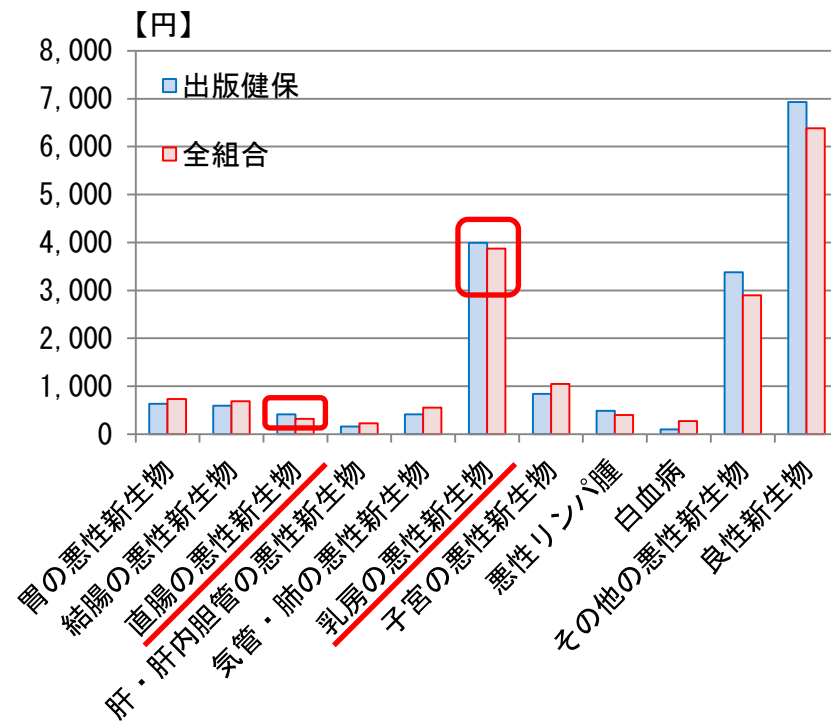
女性被保険者については、全組合に比べ、新生物および精神・行動障害、呼吸器系疾患、消化器系疾患の1人当たり医療費が高い。

H28年度 新生物1人当たり医療費（被保険者）

男性



女性



男性被保険者は結腸および直腸、気管・肺の悪性新生物の1人当たり医療費が高く、女性被保険者は直腸および乳房の悪性新生物の1人当たり医療費が高い。

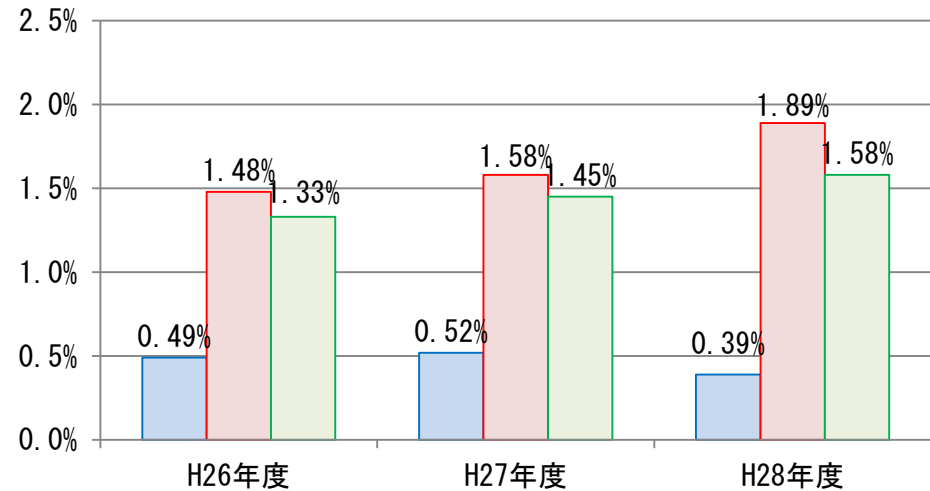
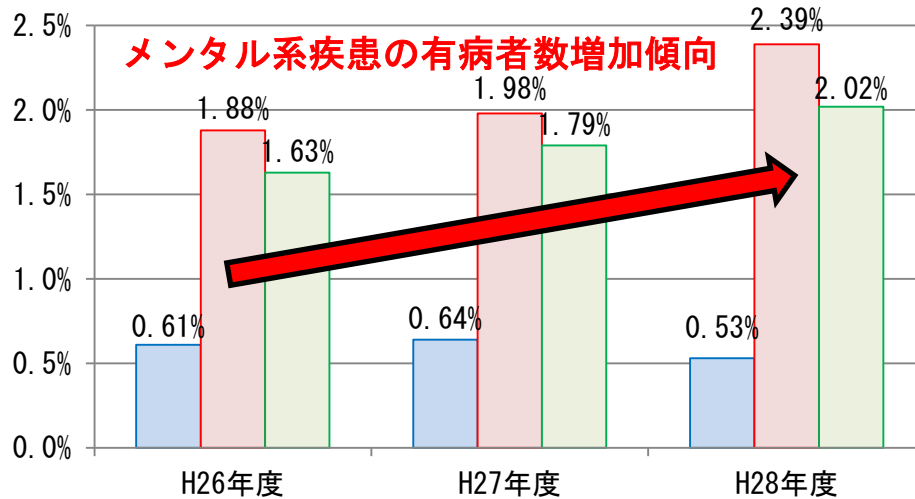
メンタル系疾患有病者数割合

出版健保

全組合

■ 統合失調症、妄想障害 ■ 気分【感情】障害
■ 神経症性、ストレス障害

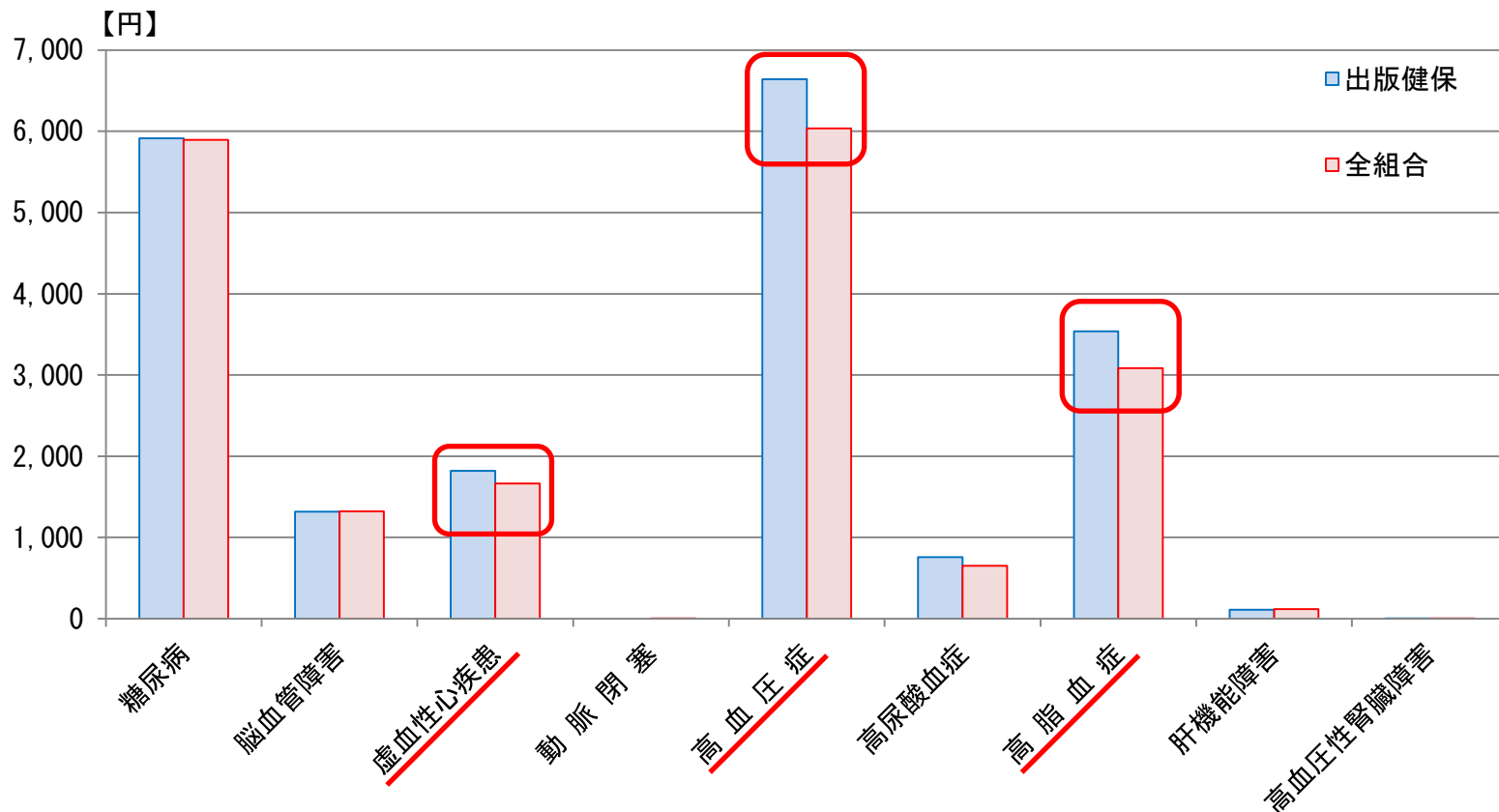
■ 統合失調症、妄想障害 ■ 気分【感情】障害
■ 神経症性、ストレス障害



メンタル系疾患の有病者数については、年々増加傾向にあり、全組合に比べ、有病者数・上昇率ともに高い。

H28年度 生活習慣病1人当たり医療費

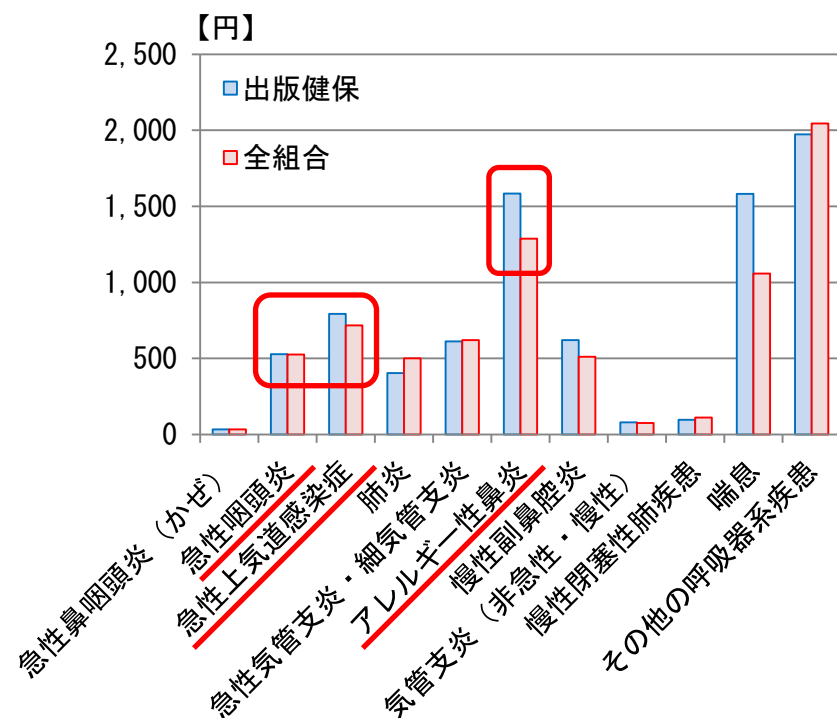
男性被保険者



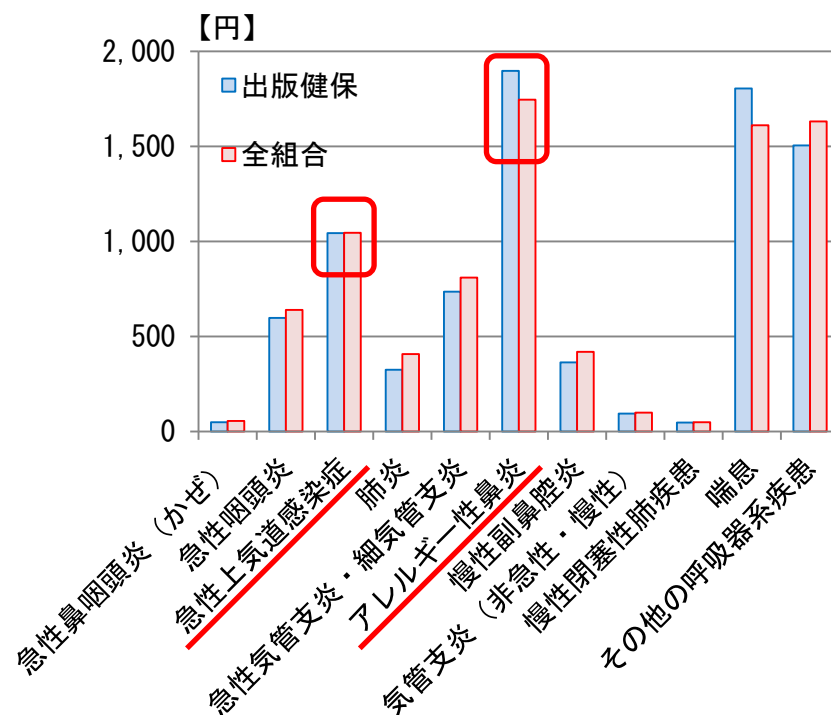
男性被保険者については、全組合に比べ、虚血性心疾患および高血圧症、高脂血症の1人当たり医療費が高い。

H28年度 呼吸器系疾患1人当たり医療費（被保険者）

男性



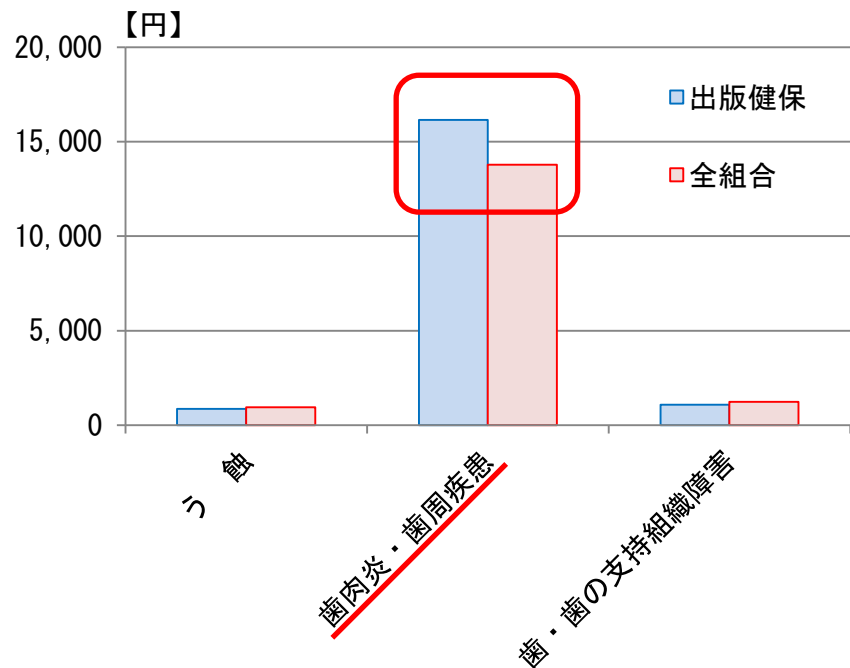
女性



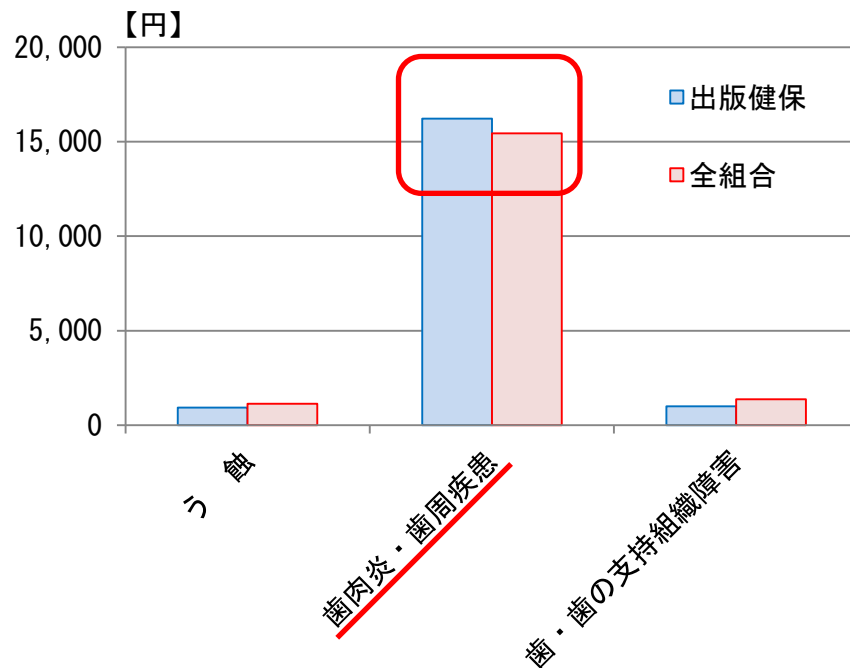
男性被保険者は急性咽頭炎および急性上気道感染症、アレルギー性鼻炎の1人当たり医療費が高く、女性被保険者は急性上気道感染症およびアレルギー性鼻炎の1人当たり医療費が高い。

H28年度 歯科系疾患1人当たり医療費（被保険者）

男性



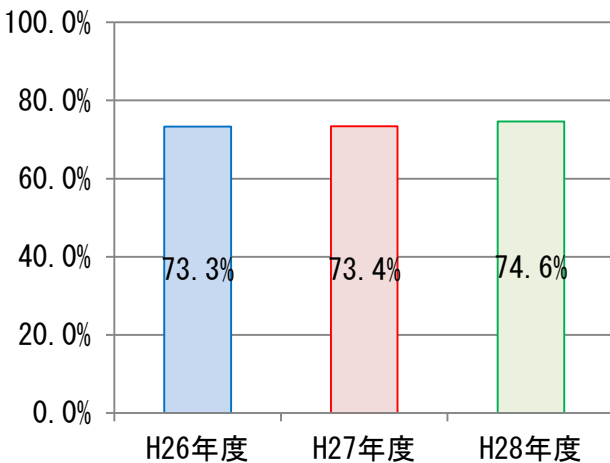
女性



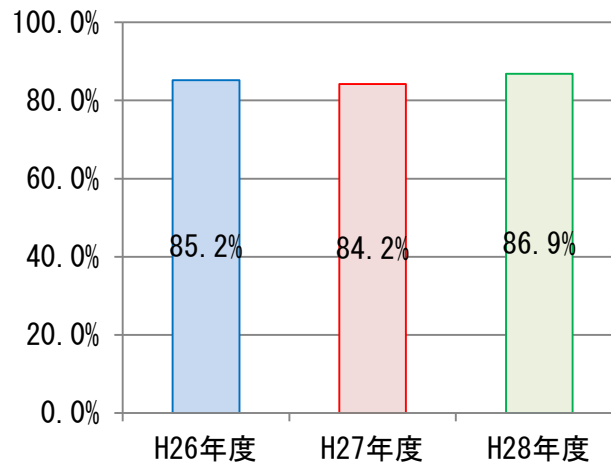
全組合に比べ、男女被保険者とも歯肉炎・歯周疾患の1人当たり医療費が高い。

特定健診実施率の推移（全加入者）

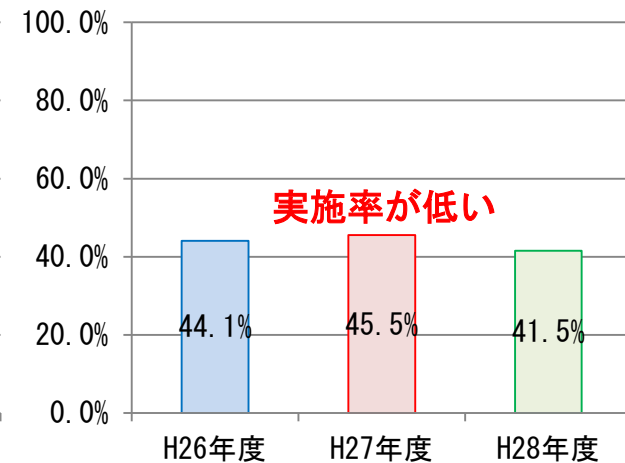
全体



被保険者

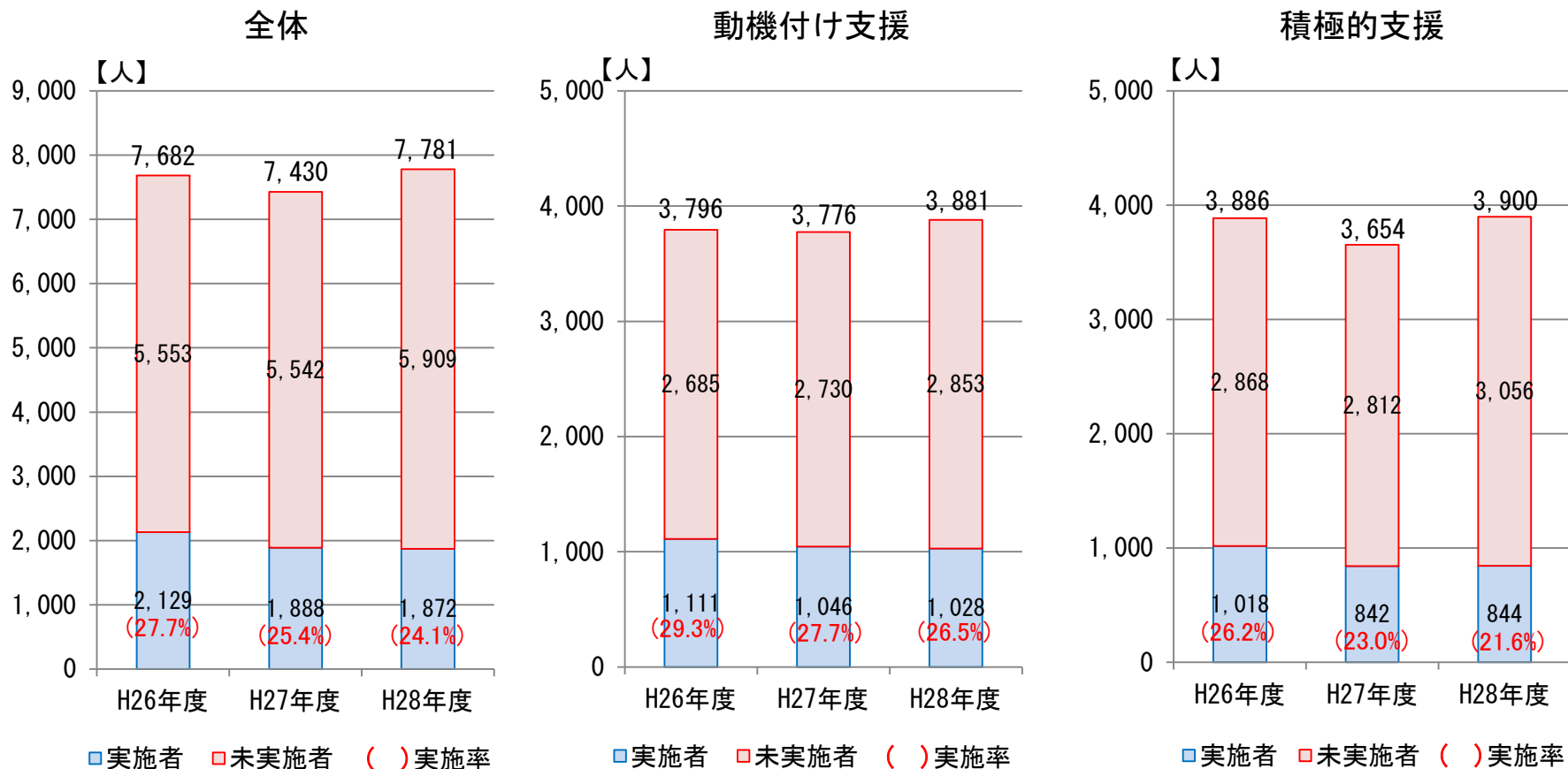


被扶養者



H26年度からH28年度にかけて、全体の実施率は上がっているが、被扶養者の実施率が低い。

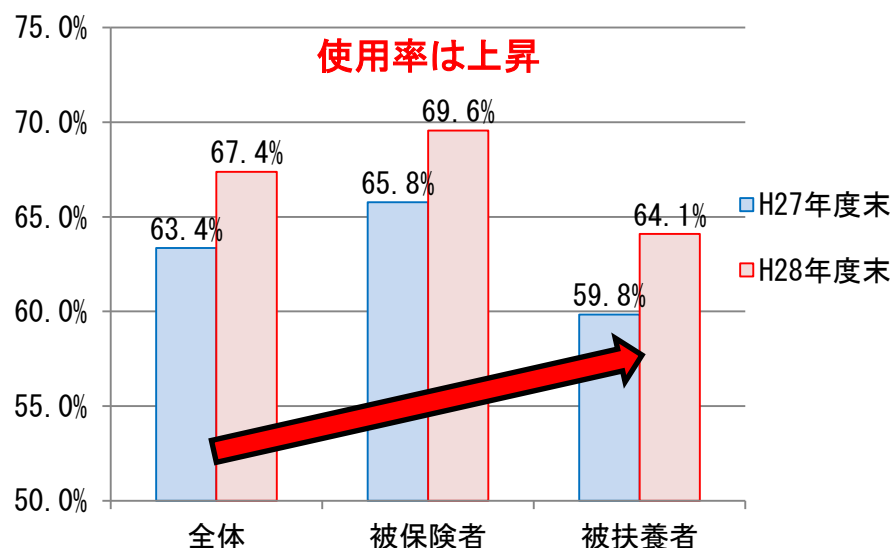
特定保健指導の対象者および実施者の推移（全加入者）



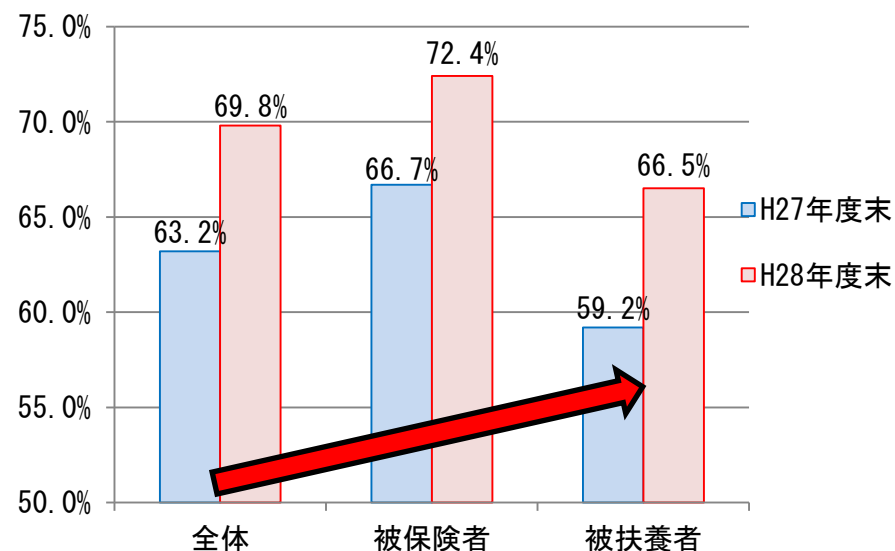
H26年度からH28年度にかけて、特定保健指導の対象者および実施者は横ばい傾向にある。

後発医薬品使用率（全加入者）

出版健保



全組合



出版健保の後発医薬品使用率については、被保険者・被扶養者とも上昇傾向にあるが、全組合に比べ、上昇率・使用率ともに低い。

4. 健康課題への対策（方向性）

健康課題	対策の方向性
男性被保険者は、循環器系疾患の医療費が高く、生活習慣病における虚血性心疾患、高血圧、高脂血症の医療費が高い。女性被保険者は、新生物の医療費が高い。	 生活習慣病の予防対策として、健診実施率の向上を掲げ、積極的に受診勧奨を実施する。また、保健指導・栄養指導による生活習慣改善を促す。体育奨励事業や運動施設事業を積極的に実施し、生活習慣病の発生予防や健康保持増進を図る。
被保険者は、男女とも新生物の医療費が高い。男性は、気管・肺の悪性新生物の医療費が高い。女性は、乳房の悪性新生物の医療費が高い。	 喫煙対策としてセミナーを実施する。 子宮や乳房の悪性新生物にかかる検査を積極的に実施する。
被保険者は、男女とも精神・行動障害の医療費が高い。メンタル系疾患の有病者数の割合が高く、傷病手当金におけるメンタル系疾患が占める割合が高い。	 メンタル系疾患対策として相談窓口の設置や事業所におけるストレスチェック体制の促進を図る。保養施設の利用促進を図り、休養やストレス低減など、心と身体の健康づくりに努める。
季節性疾患においてインフルエンザ予防対策により1人当たり医療費が低い。	 インフルエンザ予防接種を引き続き実施する。
歯科系疾患における歯肉炎・歯周疾患の医療費が男女とも高い。	 「正しい歯磨きの方法等」の情報提供および歯科健診を実施し、予防を図る。
被保険者に比べ、被扶養者の特定健診実施率が低い。大規模事業所ほど実施率が組合平均より低い傾向である。	 特定健診実施率・特定保健指導実施率の向上を図るため、事業主に対して健診を受けやすくするなど、職場環境整備の協力を依頼するとともに、加入者に対しては、健康意識が向上する情報提供を行う。⇒ コラボヘルス、意識づけ
他の組合より特定保健指導の実施率が高いが、目標数値（第2期特定健康診査等実施計画に基づく）よりは低い。	 事業主と連携を図るほか、加入者の健康意識も向上させることが、重要であるため、健診結果に基づき、分かり易い情報提供を行い、生活習慣改善の必要性を認識してもらう。
若年層生活習慣病予防対策を実施しているため、40歳時のメタボリックシンドローム該当者の割合が減少傾向にある。	 特定保健指導対象者を減らすうえで、若年層から生活習慣病予防のための保健指導を引き続き実施する。
健診結果における所見において、血中脂質、血糖の所見が高い。	 広報事業などを通じ、健診結果や数値の意味などについて分かり易い情報提供を行う。また、保健指導・栄養指導を積極的に行い、健康意識の向上と行動変容を促す。体育奨励事業や運動施設事業を積極的に実施し、生活習慣病の発生予防や健康保持増進を図る。
後発医薬品の使用割合が低い。	 機関誌等での使用促進に関するプロモーションを実施するほか、差額通知を実施し、調剤医療費の削減に向け、使用率の向上を図る。

5. 課題解決のための基盤事業の推進

出版健康保険組合 平成30年度事業計画（抜粋）

I 事業運営の重点事項

2. 保険者機能を発揮した加入者の健康保持増進

保険者機能を発揮、強化し、加入者の健康の保持増進を図る。

（1）平成30年度から開始となる第2期データヘルス計画に基づき、コラボヘルス体制（事業主との協力体制）を強化し、ICTを活用した保健事業を効果的かつ効率的に実施する。また保健事業の実施にあたってはP（計画）・D（実施）・C（評価）・A（改善）サイクルによる実効性ある事業展開を行う。（略）

III 事業運営事項

3 保健事業について

（1）データヘルス計画

第2期データヘルス計画に基づき、健診データやレセプトデータを活用して、加入者や事業所の特性や健康課題を把握するとともに、詳細な分析を行い、PDCAサイクルに沿った効果的かつ効果的な保健事業の推進に努める。

第2期データヘルス計画は第1期に引き続き、下記の「職場環境の整備」、「加入者への意識づけ」事業を展開しつつ、事業主とのコラボヘルス体制の強化及び加入者の健康意識の向上に努める。

①「職場環境の整備」は、事業主との協働（コラボヘルス）として、事業主に対し健康情報を提供することでポピュレーションアプローチを行うほか、事業所の個別訪問を行い、各種保健事業の利活用を奨励し、当該事業所の加入者の健康づくりの支援を行う。また、日本健康会議等における健康経営への取り組み「健康経営優良法人認定制度」、「健康企業宣言（健康優良企業認定制度）」に取り組む事業所の支援を行う。

②「加入者への意識づけ」として、機関誌「すこやか」、ホームページおよび健康管理支援サイト「すこやかウェブ」等を活用した情報提供を行い健康意識の向上と行動変容を促す。

第2期データヘルス計画は、第1期を踏まえて、より実効性を高め、効果的かつ効率的な事業を推進していくため、個々の事業のアウトプット(実施量)・アウトカム(成果量)について、各年度ごとに目標数値を設定し、確実に実行します。

また、事業の実施に当たっては、事業主の方々と連携してコラボヘルス体制の強化を図ります。

主な事業のアウトカム(成果量)の目標値

① 特定健診実施率 平成30年度 合計80%以上	➡	平成35年度 合計85%以
② 特定保健指導実施率 平成30年度 合計22%以上	➡	平成35年度 合計30%以
③ 後発医薬品使用率 平成30年度 合計70%以上	➡	平成35年度 合計80%以

円滑に事業を実施し、数値目標を達成するためには・・・

※上記の数値は、今後、各健保組合ごとに公表されます

事業の実施および目標の達成のため、事業主および健康管理責任者の方々と連携して加入者の健康保持増進や生活習慣病の発症予防および重症化予防等の健康づくりに取り組んでまいります。
ご理解とご協力をお願い申し上げます。